国史跡

伊勢国府跡

三重県鈴鹿市長者屋敷遺跡の発掘調査

国史跡伊勢国府跡の範囲

国史跡伊勢国府跡

1992（平成 4）年から鈴鹿市教育委員会が続けてきた発掘調査の結果，鈴鹿市広瀬町・西冨田町にまたがる長者屋敷遺跡から，政庁・官衙群が確認されて奈良時代中頃の伊勢国府であることが確認されました。その成果を受けて 2002（平成 14）年 3 月 19 日に，矢下地区の政庁跡と南野・長塚地区の官衙群の計 3 か所 73,940㎡が国の史跡に指定されました。

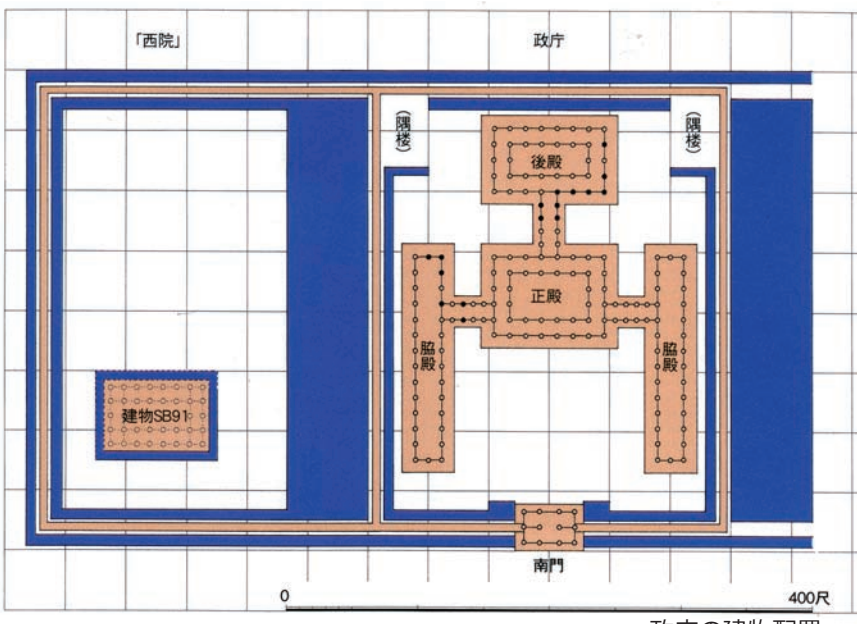
鈴鹿市考古博物館

伊勢国府跡

国府は，古代の60あまりの国ごとに置かれた古代の役所です。

三重県の大部分を占める伊勢国の国府は，地名から鈴鹿市国府町に所在すると考えられてきました。国府町には総社と伝えられる三宅神社や「長ノ城」「西ノ城戸」などの地名が残されています。昭和31(1956)年には京都大学の藤岡謙二郎さんらによって歴史地理学的な見地から調査が実施され，「方八町」の国府域が想定されました。

そんな折り，国府町から北へ約3.5kmに位置する鈴鹿市広瀬町の長者屋敷遺跡におびただしい量の古代瓦が散布することを知った藤岡さんらは，昭和32(1957)年に長者屋敷遺跡の調査を実施しました。国府町に平安期の伊勢国府を想定した藤岡さんは，長者屋敷遺跡を奈良時代の国府と考え，鈴鹿関との関係から軍団の機能を兼ね備えたものと考えました。



政庁の建物配置

鈴鹿市では，平成4(1992)年から長者屋敷遺跡の調査を開始しました。政庁やその他の官衙の確認によって，奈良時代中頃から後半にかけての伊勢国府跡であることが明らかとなりました。

政庁（矢下地区）

国府の中心的な施設である政庁は，東西600m・南北800mに及ぶ遺跡の南端で確認されました。政庁は国府の中でも最も格式の高い施設で，中央政府から派遣された国司を中心に儀式と饗宴や政務の一部が行われていたとされています。伊勢国府の政庁（伊勢国庁）は，正殿・後殿・脇殿・軒廊などからなり，周囲には東西約80m・南北約110mの築地塀がめぐらされています。政庁の建物はすべて瓦葺礎石建物で，ほぼ正方位に揃えられ，柱間には12尺あるいは10尺などの完数尺が用いられています。建物の配置や大きさは近江国庁によく似ています。

後殿基壇

後殿基壇の地覆

正殿・後殿・脇殿の基壇は今でも1mほどの高まりとして残っており，地表に痕跡を留めることが少ない国府遺構としては，全国的にも貴重な例といえます。基壇は異なる土砂を交互に叩き締めた版築工法によって造られています。政庁の建物基壇には，整形したあと，切石や瓦などで仕上げる基壇化粧の痕跡が認められないので，未完成であった可能性もあります。

後殿基壇の断面（版築）

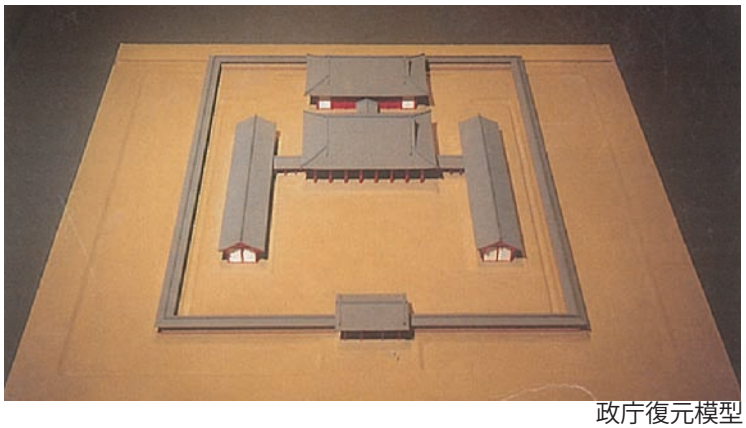
唐草文軒平瓦

重廓文軒平瓦

軒瓦には重圏文軒丸瓦や重廓文軒平瓦が主に用いられ，平城宮のものと同じ型で作られた唐草文軒平瓦（平城宮 6719A 型式）が出土しています。その年代は恭仁京遷都以前の天平年間である 729 年から 741 年頃のものと考えられています。

重圏文軒平瓦

政庁全景



政庁復元模型

伊勢國司
ISE KOKUFU SITE

西脇殿

北軒廊

礎石抜き取り痕

南門

政庁南門の基壇は失われていますが，地下を掘り返し，叩き締めながら埋め戻した掘込地業（ほりこみちぎょう）が残っていたため，基壇の大きさが推定できます。

西隅楼南溝

伊勢国庁の大きさ

	東西			南北		
	間数	柱間	全長	間数	柱間	全長
正殿	7	12	84	5	12	60
後殿	7	12	84	4	12	48
脇殿	2	10	20	13	12	156
北軒廊	1	12	12	5	10	50
東西軒廊	5	8	40	1	12	12
南門	3	中央 15 脇 12	39	2	12	24
政庁域			276			368

※柱間・全長の単位は天平尺

西辺築地

伊勢国は，延喜式（えんぎしき）に記される国の四等級のうち，最上位である大国にあたり，さらには斎宮（さいくう）や鈴鹿関（すずかのせき）など特別な役所を有していました。政庁に認められる格式の高さは当時の伊勢国が置かれていた状況を物語ります。

東築地内溝

西築地外溝

政庁西院（中起地区）

政庁の西には，政庁とほぼ同じ大きさの区画があります。周囲に築地塀もしくは土塁をめぐらせ，その内部では瓦葺礎石建物 SB91 が見つかっています。SB91 の規模ははっきりしませんが，掘込地業がわずかに残り，周囲には溝が掘られています。「人」・「上」などの文字瓦が多く出土しました。

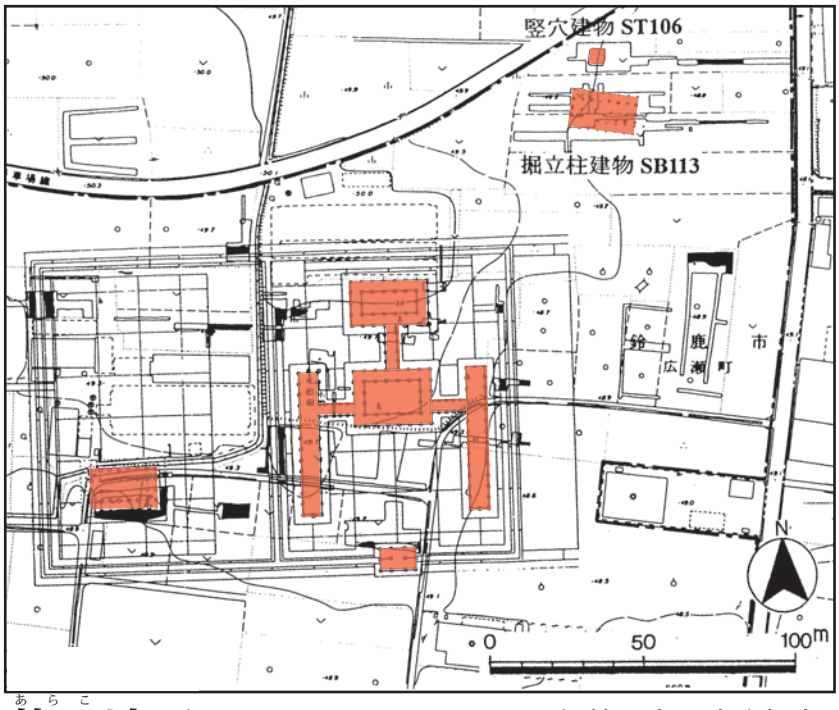
北築地外溝

西院西区画溝

西院建物 SB91

政庁西院は，政庁の機能を分掌し，補完する施設であったと想像されます。同様の官衙区画は，近江や三河においても推定されています。

ISE KOKUFU SITE



土師器・須恵器

荒子（あらこ）地区

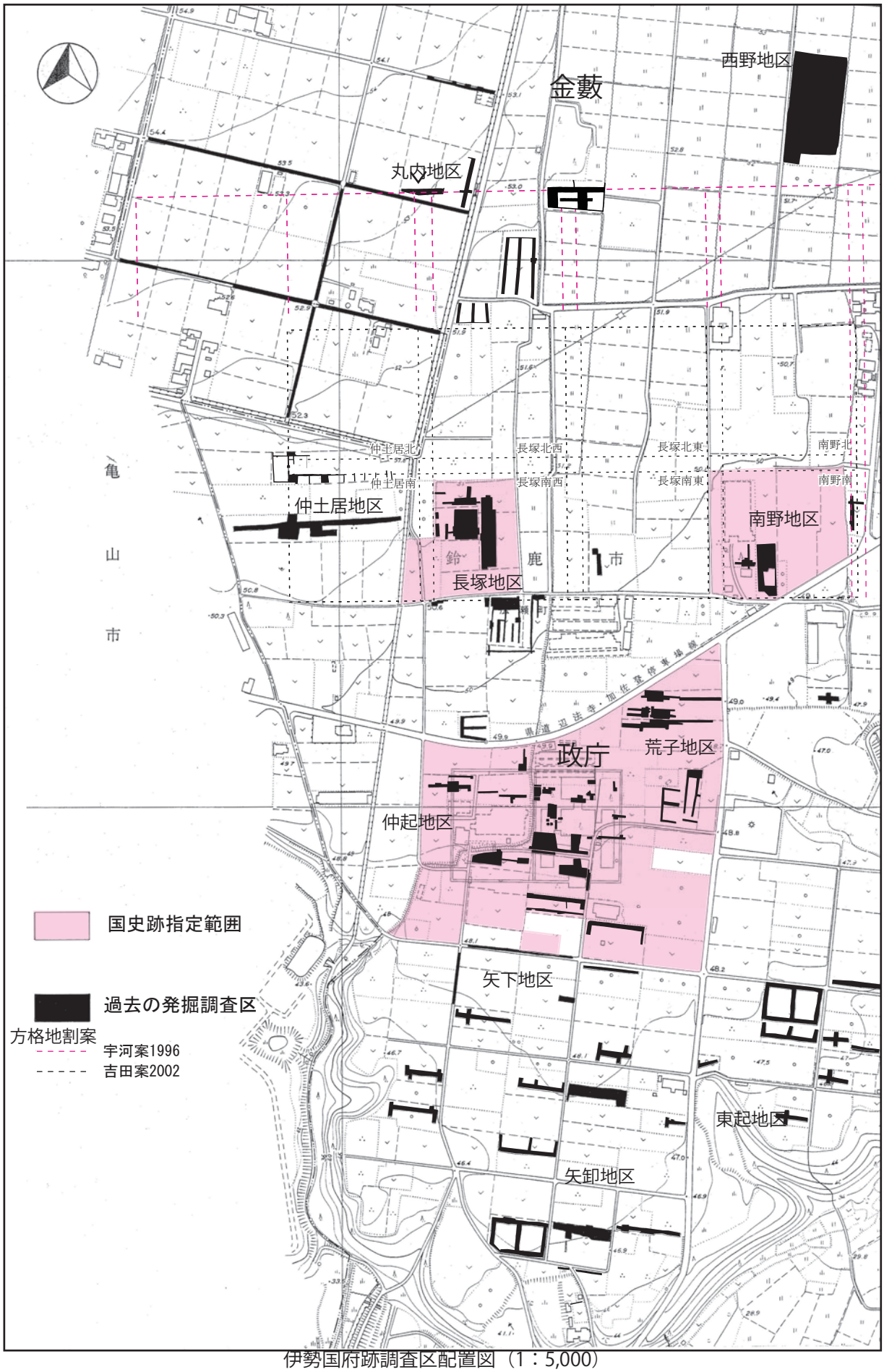
政庁の北東に隣接して，竪穴住居（建物）や掘立柱建物が発見されました。いずれも国府中枢に関わるものではなく，奈良時代の終わりから平安時代初頭にかけての仮設的な施設と思われます。

竪穴住居 ST106

掘立柱建物 SB113

伊勢国府関連略年表

天武元 (672) 年	壬申の乱・飛鳥浄御原宮遷都
持統 3(689) 年	飛鳥浄御原令施行
持統 4(690) 年	庚寅年籍作成
持統 6(692) 年	持統天皇伊勢行幸
持統 8(694) 年	藤原宮遷都
大宝元 (701) 年	大宝律令制定
和銅元 (708) 年	和同開珎発行
和銅 3(710) 年	平城京遷都
和銅 6(713) 年	伊勢国大風
養老 2(718) 年	養老律令撰定開始
天平元 (729) 年	長屋王の変
天平 12(740) 年	藤原広嗣の乱・聖武天皇伊勢行幸
天平 13(741) 年	恭仁京遷都・国分寺建立の詔
※このころ鈴鹿市広瀬町に伊勢国府造営か	
天平 16(744) 年	難波宮遷都
天平 17(745) 年	紫香楽宮遷都・平城京還都
天平宝字 6(762) 年	伊勢国飢饉
天平宝字 7(763) 年	石川名足を伊勢守に任ず
天平宝字 8(764) 年	藤原仲麻呂 (押勝) の乱
天平神護 2(766) 年	伊勢国で官舎風損
宝亀 6(775) 年	伊勢国で異常風雨 . 大祓おこなう
宝亀 7(776) 年	大伴家持を伊勢守に任ず
宝亀 11(780) 年	石川名足を伊勢守に任ず
延暦 3(784) 年	長岡京遷都
延暦 8(789) 年	伊勢国飢饉
延暦 13(794) 年	平安京遷都
貞観 16(874) 年	伊勢国大風暴雨で国府官舎倒壊
享保 17(1732) 年	長者伝説に関する記録の初見
宝暦 13(1763) 年	長者屋敷遺跡に関する記録の初見
昭和 32(1957) 年	藤岡謙二郎らによる最初の発掘調査
平成 4(1992) 年	鈴鹿市教育委員会による発掘調査開始
平成 5(1993) 年	政庁の確認
平成 8(1996) 年	南野地区の調査
平成 9(1997) 年	長塚地区における倒壊瓦の発見
平成 11(1999) 年	政庁南門の確認
平成 12(2000) 年	政庁西院の確認
平成 14(2002) 年	国史跡に指定



伊勢国府跡調査区配置図（1：5,000）

南野地区

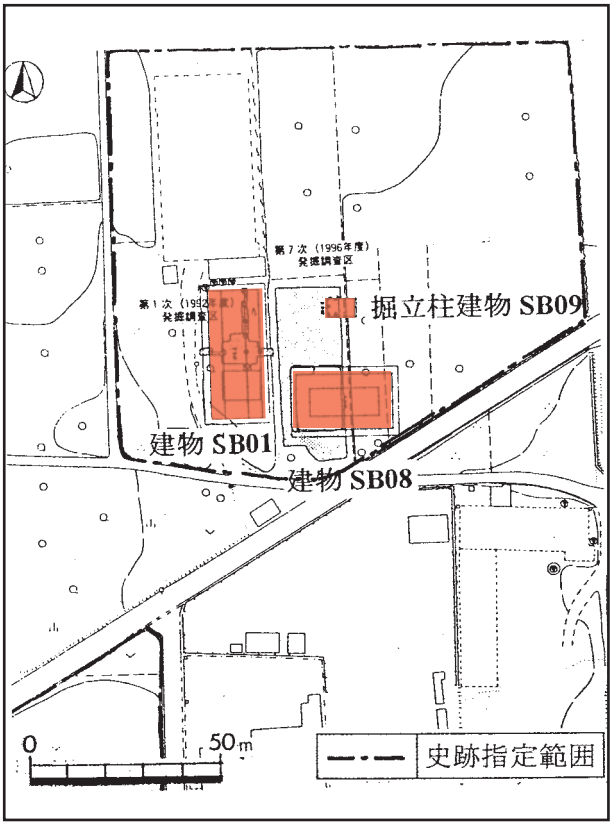
瓦葺礎石建物 SB01・SB08 と掘立柱建物 SB09 や溝・土坑（どこう）が見つかりました。SB01 は今も礎石が残っています。SB01・08 の周囲には溝が掘られ，「前」・「水」などの文字瓦や鬼瓦を含む大量の瓦をはじめ，鞴（ふいご）の羽口（はぐち）や鉄滓（てつさい）が出土しました。軒瓦は重圏文軒丸瓦が 1 点出土したのみです。平瓦には広端側に赤色顔料が付着するものもあり，平瓦が軒平瓦として用いられたこともあったようです。

鬼瓦の出土

建物 SB01 礎石

調査区全景

掘立柱建物 SB09



南野地区遺構配置図

長塚地区

瓦葺礎石建物 SB27・40・44・47 や溝・土坑が見つかりました。幅約 9m の大溝 SD23 から出土した大量の瓦には，屋根に葺かれていた様子のわかるものがたくさんありました。すぐ東隣の SB27 が西に倒れ，たまたま大溝 SD23 の中に屋根の形状をとどめたのでしょう。軒瓦は政庁に次いで豊富です。鬼瓦や「人」・「宿」などの文字瓦も出土しました。

建物 SB27 倒壊瓦

「倒壊瓦」は主に丸瓦・平瓦から構成され，軒瓦の出土はわずかでした。平瓦には広端部と狭端部が逆向きに出土したものがあり，これらが軒に使用されていた可能性も考えられます。瓦に伴って出土した土器類は，8 世紀終わりから 9 世紀初め頃と推定されます。遅くとも平安時代の初め頃には建物が倒れていたものと考えられます。

建物倒壊の原因は，台風などの自然災害であったものと思われます。続日本紀などにも被害の記録が残されていますが，発掘調査で見つかる倒壊の跡と古記録との整合性は確かめられていません。

長塚地区の建物群の南部を調査したところ，2 条の溝が並行して東西に伸び途中で 12 mにわたって途切れていました。その位置は東西棟の建物群の中心軸と一致します。この 2 条の溝は長塚地区の建物群に伴う築地塀の側溝であり，途切れた部分には瓦葺礎石建物の門が存在したと見られます。

長塚地区遺構配置図

門 SB143 と築地側溝

ISE KOKUFU SITE

鬼瓦

押印瓦

建物 SB44・47

建物 SB27

長塚地区や南野地区における瓦葺きの官衙は，国司の館（たち）や曹司（ぞうし）といった実務官衙であった可能性が考えられています。

これらの地区を含む遺跡北半の官衙群は，幅 12 mの街路をはさみ一辺 120 mの方格（ほうかく）の地割に基づいて整然と配置されているという見方があります。事実とすれば他の国府に類を見ない特徴といえます。

ただし遺跡南端にある政庁との関連はよくわかりません。

倒壊瓦

軒平瓦の出土

仲土居（ながどい）地区

方格地割説の確認をするために，仲土居南・仲土居北区画の接する地点を調査しました。仲土居南区画では２条の溝が西辺と同様に北辺にも存在することが確認されました。しかし，この東西溝は途中で途切れています。

仲土居北区画では西辺は南区画から続く２条の溝が見つかりましたが，区画南辺に該当する溝は見つかりませんでした。全体計画として地割は施されていたものの，完成には程遠い段階といった印象です。

仲土居北・南区画の溝

仲土居地区では緊急調査に伴い，礎石瓦葺建物ＳＢ 131 とその西側から並行する２条の南北溝が見つかりました。この溝から西側では全く遺構が見つかっていないので，この溝が官衙域の西辺に当たると見られます。

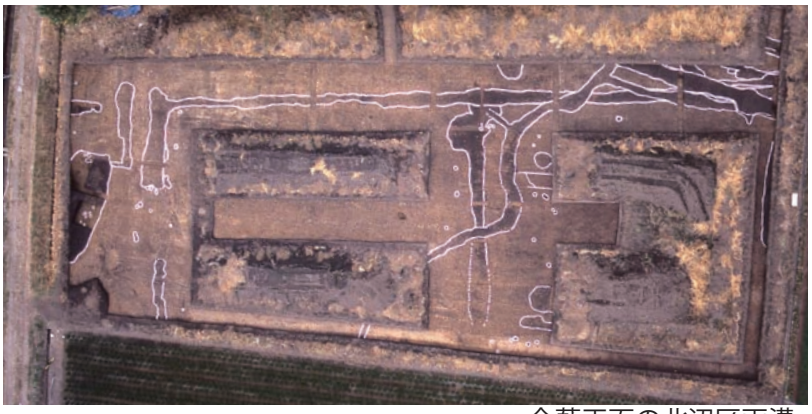
礎石建物 SB131

西辺区画溝

丸内地区

伊勢国府跡の方格地割は少なくとも東西４ブロック，南北３ブロックが施工されている可能性が高いようです。近年はこの地割の北辺部の状況を確認する調査を実施しています。北辺では東西の地割り溝は１条のみからなり，土塁や築地を構成しないようです。南北溝も１条または施工されていない部分もあることがわかりました。ただ，これより北に溝が延びることは無いようです。

金藪（かなやぶ）の森は政庁の真北に当たりますが，ここの前面の調査区からは，東西溝の続きが検出されましたが，ここでは溝が 24 m間隔で途切れ南に折れていることがわかりました。つまり，メインに当たる街路が幅 24 mである可能性も出てきたのです。方格地割の全容解明にはもう少し時間がかかりそうです。



金藪正面の北辺区画溝

北辺区画溝と南北区画溝の交わり

西野地区

遺跡の北辺部に当たります。緊急調査として調査を実施しました。その結果，竪穴住居４棟，掘立柱建物４棟以上，東西大溝を検出しました。掘立柱建物には両面廂（ひさし）のもの１棟，片面廂のもの２棟があります。おそらくは国府の運営にかかわった人たちの居住地でしょう。大溝は，方格地割とは別に掘られたもののようです。

廂を持つ掘立柱建物と竪穴住居

ISE KOKUFU SITE

矢下（政庁南部）・矢卸・東起地区

下野国府や多賀城跡（陸奥国府）などの発掘調査の成果から，国府というと政庁前面には朱雀路とも呼ぶべき大路が南に延び，その両側には曹司や国司の館が立ち並ぶというイメージがあります。ところが，伊勢国府跡では政庁の南側に広大な平地が広がるにもかかわらず，瓦や土器の散布がほとんど無く謎となっていました。

そこで，南面の台地端まで大規模な確認調査を行いました。奈良・平安時代の遺構としては鬼瓦を含んだ溝 1 条，掘立柱列（建物）1 棟が見つかりましたが，期待された朱雀路などの道路遺構や地割溝そして建物群は全く見つかりませんでした。

掘立柱列（建物）

鬼瓦を出土した溝

まとめにかえて

伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）の発掘調査に着手して 15 年が経過しました。奈良時代中頃の残りの良い政庁遺構，政庁北方の礎石瓦葺建物を中心とした官衙群そして方格地割など，大国である伊勢国にふさわしいユニークな遺構が確認され，古代地方官衙研究に欠かすことのできない貴重な遺跡となりました。

しかし，政庁の建物には屋根が葺かれ，柱に丹塗りがされるところまで完成しながら，基壇の化粧が施されておらず未完成であったと考えざるをえません。北方官衙も整然と地割がなされているにもかかわらず，建物群や築地等の整備は全体には及んでいません。政庁南方にいたっては広大な土地がほとんど手付かずのままです。結局，この長者屋敷遺跡は国府として完成の段階には至ってはいなかったと言わざるを得ません。

なぜ，これほど計画的な整備が進められたのか。それにもかかわらず，短期間で利用されなくなったのか，文献資料にも答えはありません。今後も調査により明らかにしなければならない課題が多く残されています。

また，鈴鹿川をはさんで南に位置する国府町には，この長者屋敷遺跡（伊勢国府）から移転した奈良時代後期～平安時代の国府が存在するはずです。三宅神社遺跡・天王山西遺跡などで国府関連と見られる遺構は見つかっていますが，政庁や曹司などの官衙遺構はまだ確認されていません。

2 つの伊勢国府の実態解明に向け調査はまだまだ続きます。

1：100,000
（国土地理院地形図 1/50,000 「亀山」「鈴鹿」を使用。）

利用案内

近鉄平田町駅から三重交通バス亀山駅行き「西富田東」下車徒歩 40 分，C-BUS 椿平田線「荒神山口」下車徒歩 40 分
JR 井田川駅下車徒歩 1 時間
県道辺法寺・加佐登停車場線と国道 1 号線西富田立体交差を降りた市道に案内看板があります。
広瀬町運動公園駐車場と政庁跡に説明板があります。

国史跡　伊勢国府跡

編集・発行　鈴鹿市考古博物館

〒 513-0013　三重県鈴鹿市国分町 224　TEL059-374-1994　FAX059-374-0986
E-mail：kokohakubutsukan@city.suzuka.lg.jp　URL：http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/